



〈ますざわ すえお〉1937年亀田郡大野村（現北斗市）生まれ。1957年に騎手デビューし、ハイセイコーなどは中央での全16戦でコンビを組み、皐月賞、宝塚記念などを制覇。アサデenko（日本ダービー）、インノヒカル（菊花賞、有馬記念）、ハワイアンイメージ（皐月賞）、ダイナガリバー（日本ダービー、有馬記念）など、1992年の引退まで通算206勝を記録。44歳にして初のリーディングジョッキーにも輝いた。馬の状態が悪い時期で結果は振るわなかったものの、オリギャップにも騎乗経験がある。1993年に調教師となり、2008年に引退。現役時代は「鉄人」の愛称で人気を博した。

(デビユー以来、初の敗戦となった)ダービーも、体調さえ万全だったら勝てたんじゃないかな。前の年に大井で6戦して、中央へ移ってからは、皐月賞のあとにNHK杯も走りダービーが5戦目でしたからね。さすがに疲れがあつたのだと思います。

ヨーロッパの馬場は非常に重いので、日本の馬はフランスの凱旋

まさかあんな
——そのハイセイコー
の曲ができ、歌手デビ
ューすることが決まっ
たときは、どんなお気
持ちでしたか。当時、
競走馬が主役の曲が作
られ、しかも現役の騎
手が歌うというのは、

か、と思っています
 当時は海外遠征など現
 实的ではない時代でし
 たが。

売れるとは…

かなり異例なことでした
 たが。

曲ができたのは、そ
 れだけハイセイコーの
 人気が高く、ファンの
 支持があつたというこ
 とでしょう。地方出身
 の馬がエリート揃いの

中央へ来て、どんな競馬をするのか——。フアン関心は高く、中央初戦の弥生賞はものすごい観衆で、スタンドからファンが押し寄せ、馬場になだれ込んできたくらいの熱気でした。

「さらばハイセイコー」は、レース実況を務めていたアナウンサーの小坂巖さんが、「今度、ハイセイコーの曲を作るから」と。誰が歌うのかな、と思っていたら「歌ってよ」と言われて（笑）

（発売元の）ポリドルに行ったとき、作曲の猪俣公章さんと初めてお会いしたのですが、実は、その方が有名な作曲家の先生ということとは知りませんでした。「ど、こういう歌が好き？」

とか聞かれ、「じゃあ演歌調だね」という話になり、その場でピアノを弾かれて、それに合わせて歌ったら「これでいきましよう」という感じです。猪俣さんとの顔合わせは、これが最初で最後でした。そのあと、ポリドールで吹き込んだわけですが、まさかあんなに売れるとは、誰も思っていなかったはずですよ。最初に聞いたときは、いい歌だな、と思いました。

——歌番組やステージで歌うとなると、大レースを何度も経験されている先生でも、違った緊張感がありましたか。

あの頃は、たくさん歌番組があったので、毎週テレビに出演して

重馬場で強さを発揮した皐月賞
——地方の大井競馬から移籍してきたハイセ
イコーの印象はいかがでしたか。

当時、大井での活躍は知らなかったのですよ。今だから言えますが、はじめはダート馬だと思いました。芝で

も走ることは走りましたが、スピードタイプではなく、完全にパワータイプの馬でしたね。けっこうなクセ馬で、乗りにくさはありました。皐月賞では、カーブを曲がるときに外に行ってしまう、危なかつたのですよ。

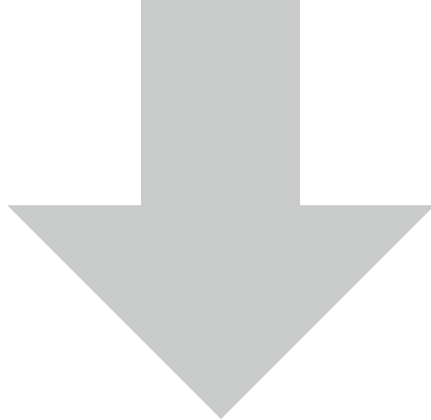
その皐月賞が（ハイセイコーの全レースの中で）一番強いと感じました。3コーナーでハナに立ち、そのまま押し切れると確信がありましたから。皐月賞

も重馬場でしたが、とにかくパワーが凄かったので、雨が降って力のある馬場は本当にうまかったですね。泥んこの不良馬場だった翌年の中山記念は、2着（トヨーアサヒ）以下に大差で、3着がダービー（ハイセイコー）が3着に敗れたレース）を勝ったタケホープでした。昔は今のようにはダーツのGIレースがなかったのですが、ダーツであればまず負けなかったでしょう。

競馬史に名を残す「国民的スターホース」といえば、ハイセイコーとオグリキャップが双璧といえるだろう。ともに地方競馬の出身であり、競馬ファン以外にも愛され、社会現象まで巻き起こした。ハイセイコーと中央の全レースでコンビを組んだ増沢末夫氏は、現役のトップ騎手でありながら「さらばハイセイコー」で歌手デビューも果たし、空前の大ヒットを記録。哀愁ある歌声で、ハイセイコー人気をいっそう高めることとなった。ハイセイコーの故郷・新冠町には馬像と歌碑が建てられ、いまも多くのファンが訪れている。現在、東京競馬場がある府中市で暮らす増沢氏に、「名馬」と「名曲」のエピソードを振り返っていただいた。

元JRA騎手・調教師 増沢末夫

自身が歌った「さらばハイセイコー」が空前の大ヒット
元名振返る「名馬」と「名曲」の思い出
騎手が



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)